

特集

安全できれいな水を考える



3月は水と衛生月間

日本では「水と安全はタダ」の意識が、まだまだ残っているかもしれません。しかし、いつまでその状況が続くのか、意識されたことはありますか？コロナ禍の中、ニューノーマル（新しい生活様式）の整備が急がれています。水についても、ロータリーはどんな取り組みが可能なのか、改めて考える時を迎えているのではないでしょうか。



宮ヶ瀬ダムは、神奈川県の中央部を流れる相模川の支流・中津川にあります。その目的は「洪水の調整」「水道水の供給」「河川環境の改善」「発電」。都心から約50km圏内に位置した首都圏最大級のダム貯水池です。

水がめ探検隊は進む 活動はいつも等身大で

かながわ湘南ロータリークラブ（R C）は、日本で初めて、ロータリー学友を中心につくられたクラブです。2004年の創立時から、「自ら汗を流し奉仕を実現すること」を掲げ、活動してきました。

当クラブと、児童養護施設・聖園子供の家（神奈川県藤沢市）との交流は、2007年にさかのぼります。最初の活動は、同施設の最寄り駅・小田急線の善行駅周辺での共同清掃と、その後の楽しいカレーパーティー。以来、毎年バラエティーに富んだ交流を重ねてきました。

毎回、ただ楽しいだけではなく、子どもたちの未来に寄与できるようなプログラムを工夫しています。今回は交流10周年を記念して、2017年に実施した「かながわ水がめ探検隊」プロジェクトを紹介します。

日本の水事情を会員が知ることから

まず、地域に着目。県北西部に広がる丹沢山地は、首都圏に近いながらも自然豊かで野生動物が生息し、四季の美しい山花が、訪れる人の心を和ませてくれる地です。この地には宮ヶ瀬ダムがあります。ここで、子どもたちと神奈川の水について学び、地域の自然を体験してみてはどうだろう？ とプロジェクトが動きだしました。

かながわ湘南RC 磯崎 勇次

プロジェクト責任者を2017-18年度社会奉仕委員長の私とし、クラブ理事会の承認を受け、ロータリー財団の地区補助金を申請しました。国際ロータリー（R I）の重点分野の一つ「水と衛生」に合致した活動を重ねたわけです。

初めに、会員自身がダム建設の歩みや、水道料金が自治体ごとに異なることなど、日本の水事情について学びました。なお、ロータリーの活動として、喫緊の対応が求められる水の安全性については、日本ではほぼ問題にならないことも改めて確認できましたが、こうして見直してみると、日本の水の実情、案外、よく知らないものだという印象を持ちました。

次は、本番でスムーズに運営できるよう、下見です。予定コースの七沢森林公園内「森の民話館」に立ち寄ったところ、県立丹沢の樹木を利用したクラフト教室があることを知りました。山にある木片や木の実などを使って、世界に一つだけのクラフト作品づくりが体験できるとは。文句なく、日程に加えました。

水がめ探検隊、いよいよ出発

2017年11月19日。施設の子どもたちと会員、合



わせて 41 人の水がめ探検隊員を乗せ、バスはいよいよ出発。友人ロータリアンの好意により、格安で利用できました。丹沢の麓に近づく。青空と紅葉のコントラストが見事でした。宮ヶ瀬ダムでは、スタッフが訪問者にだけ配られる「ダムカード」を用意して、出迎えてくれました。研修室でダムやエネルギーの話を聞き、展示室で自家発電にも挑戦。ケーブルカーでダムサイトに下り、ダムを見上げると、コンクリートの巨大な壁に歓声が上がりました。子どもたちだけではなく、ロータリアンの歓声も……？

昼食後は七沢森林公园へ移動。クラフト教室が開講され、係員から工具の使い方を教えてもらい、作業開始となります。すぐに作業に入る隊員もいれば、じっくり構



想を練る隊員もいます。皆、真剣なまなざしで作業に集中し、完成した作品は文字通り、世界で一つだけの見事な出来栄えでした。

2020 年、交流は 13 年目を迎きました。コロナ禍のため、子どもたちは施設内での生活が長くなつたと聞き、クラブは急きょ、中古ピアノをプレゼントしました。当クラブ会員には音楽家が多く、今後は、このピアノを使った交流が楽しみとなりました。

クラブの歴史は、聖園の子どもたちとの交流なくして語れません。私たちは「支援」という言葉は使いません。常に子どもたちとの「出会い」として、皆の気持ちを大切に考え、活動し続けてきました。

これからも、等身大で子どもたちと一緒に汗を流していくことを思っています。
(第 2780 地区 神奈川県)



出掛けられるようになつたら

国土交通省では民間ツアー会社と連携し、「ダムツアーア」を実施。ダムを観光資源として活用するもので、まだ完成前の工事中のダムも見学できるなど、今、幅広いダムツーリズムが推進されています。行くと「ダムカード」という、そのダムならではのカードがもらえたり、ご当地名物の食事に出会えたり、学びながら楽しめますよ。



富士山の東斜面に降った雨や雪解け水は、約8,500年前の富士山噴火で堆積した溶岩の間を通って、約40km離れた静岡県駿東郡清水町の国道1号線直下から、こつぜんと湧き水となって現れます。湧出量は1日に約100万t。これを水源とする柿田川は、1985年「柿田川湧水群」として、環境省の「名水百選」に選定されました。国の天然記念物にも「地質鉱物」の枠で指定されています。

名水百選・柿田川湧水群を守り続ける

沼津柿田川RC 安本 晋／川口 尚史

わがクラブ名は、日本三大清流の一つであり、環境省指定の「名水百選」にも選ばれている「柿田川」に由来します。湧き水を水源とするこの川の水を守ることは、流域の水質を向上させ、自然環境を保全することでもあり、ひいては、この地ならではの生態系を維持することにもつながります。外来種の駆除を行うことで、柿田川の固有植物「ミシマバイカモ」も、守ることができるのです。

唯一無二の柿田川湧水群を守るのはこの私たちだ、と、2015－16年度から、清掃活動を始めました。具体的には、柿田川河川内において、会員全員が胴付長靴を着用し、水中の清掃や外来種（水中植物）の除去を行っています。9月の日曜日を一日、活動日と定めているので

すが、最大の特徴は、私たちのクラブだけで行っているのではないということ。クラブ、地区を超えた第2580地区的ロータリアン、米山奨学生、米山学友も参加し、両地区のロータリーファミリーによって、本格的な清掃保全活動に当たるのです。これこそ文字通り「意義ある事業」、とひそかに自画自賛していたところ、2017－18年度、本当にR I の「意義ある業績賞」を受賞したのはうれしい誇りです。

2019年の活動では、初めての試みとして、清掃に先立ち「水と衛生」に関するグループディスカッションを行いました。柿田川についてのスライドを見て、参加した米山奨学生や学友から、各国の水衛生事情を聞き、グループごとに発表することで、過去の体験が最新の知識



と重なり、水資源の大切さを各参加者が再度、認識するに至りました。

続いて、いよいよ柿田川清掃です。例の胴付長靴を着用して柿田川に入り、水中の清掃や外来種駆除に精を出しました。重労働ですが、柿田川の美しさを水に入って堪能することができるのもはや特権かと。

2020年は新型コロナの影響で、早朝例会に振り替え、当クラブ会員だけで柿田川公園清掃をし、ベンチやテーブルの安全性を確認後、ファミリーレストランで食事。理事会後、寂しく解散しました。

参加希望のロータリアン、ロータリー家族の皆さん、大歓迎です！
(第2620地区 静岡県)

私たちの水は本当にきれいなの？

私たちのクラブが所在地域とする那須塩原市黒磯地区は、栃木県最北に位置する自然豊かな地です。この恵まれた地で、私たちが大切に思うものの一つに、那珂川なかがわがあります。那須連山の渓谷を水源とする、全長150kmの大河です。

自然のままだった那珂川にも、1970年頃から上流部に複数のダムが造られました。すると、黒磯地区内での流水量減といった変化が見られるようになったのです。水は、一部の市民用ですが生活用水とされています。那珂川の水は本当にきれいなの？ 水質、悪化していないの？ という声が上がりはじめました。

そこで当クラブでは2007年6月、一度、正確な水質の状況を把握しようではないか、となりました。社会奉仕委員会が、調査を実施することを決定。調査するなら本格的に、ということで、1泊2日の泊まりがけ調査隊を結成し那珂川本流4カ所、源流1カ所の計5カ所で採水して回り、そのサンプリングした水を専門機関に持ち込み、分析を依頼しました。

結果は5地点全てで、水質の指標となる4項目（水素

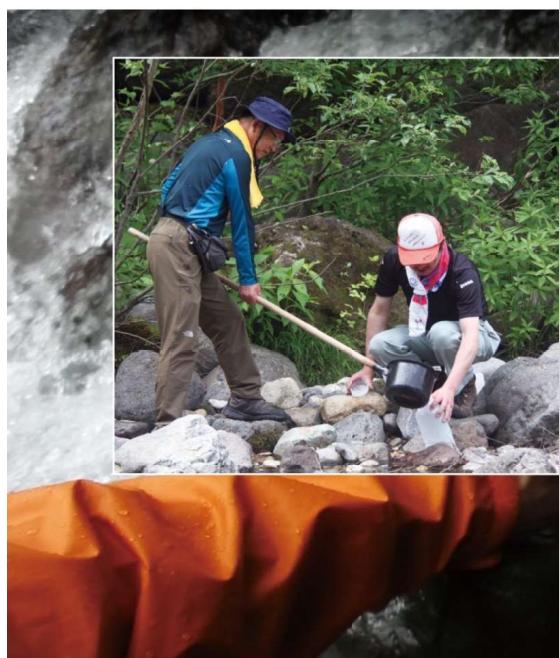
黒磯RC 相馬 征志

イオン指数 = pH、生物化学的酸素要求量 = BOD、化学的酸素要求量 = COD、浮遊物質量 = SS）が、環境省の定める基準（水道水として供給可）に適合し、汚染といえるほどではなく、やれやれ、とひとまずは安堵しました。しかし、大腸菌群の数値は下流域ほど、高くなる傾向が見られました。この点は、流域周辺の状況が影響していると考えられ、油断なりません。

以来、2019年まで毎年調査を継続しています。コロナが収束したら、調査を再開する予定です。分析結果に大きな変化（水質の悪化）が見られた場合は、行政にデータを開示することにしていますが、環境が悪化しないことを、切に願っています。

調査隊ですが、「1泊2日」にはもう一つ、大切な理由があります。採水はとことん源流まで行くので、泊まりがけ必須となります。どうせ泊まるなら、ということで、最後は歩いてしか入れない、秘湯温泉に泊まるのです。会員は毎年、ロータリーならでは、の旅の思い出も重ねています。

(第2550地区 栃木県)



関東随一の清流。県立馬頭高校水産科がチョウザメの養殖に成功し、その卵キャビアは隠れた名産品です。サケが上り、初夏になるとアユ釣りを楽しむ人でぎわいますが、水の清らかさへの過信は禁物。地域に寄り添い見守り続ける奉仕、それでこそロータリー。

日本の水資源～着眼点を定める

国土交通省水管理・国土保全局水資源部から、日本の水需給や水資源開発の現状、今後早急に対応すべき水資源に関わる課題などについてまとめた「日本の水資源」が毎年、公表されています。水に関する活動を計画する時、最新データとして参考になるでしょう。

最新の「令和2年版　日本の水資源の現況」から、今回の特集の活動に関与するものを紹介します。

ダムを教育の場に

21世紀のダム事業・ダム管理においては、水源地域の自立的、持続的な活性化を図り、水循環などに果たす水源地域の機能を維持しつつ、自然豊かな水辺環境や伝統的な文化資産などを利用できるよう、ハード、ソフトの両面、バランスの取れた流域の発展を図ることが期待されています。

このため、国土交通省および（独）水資源機構は、両

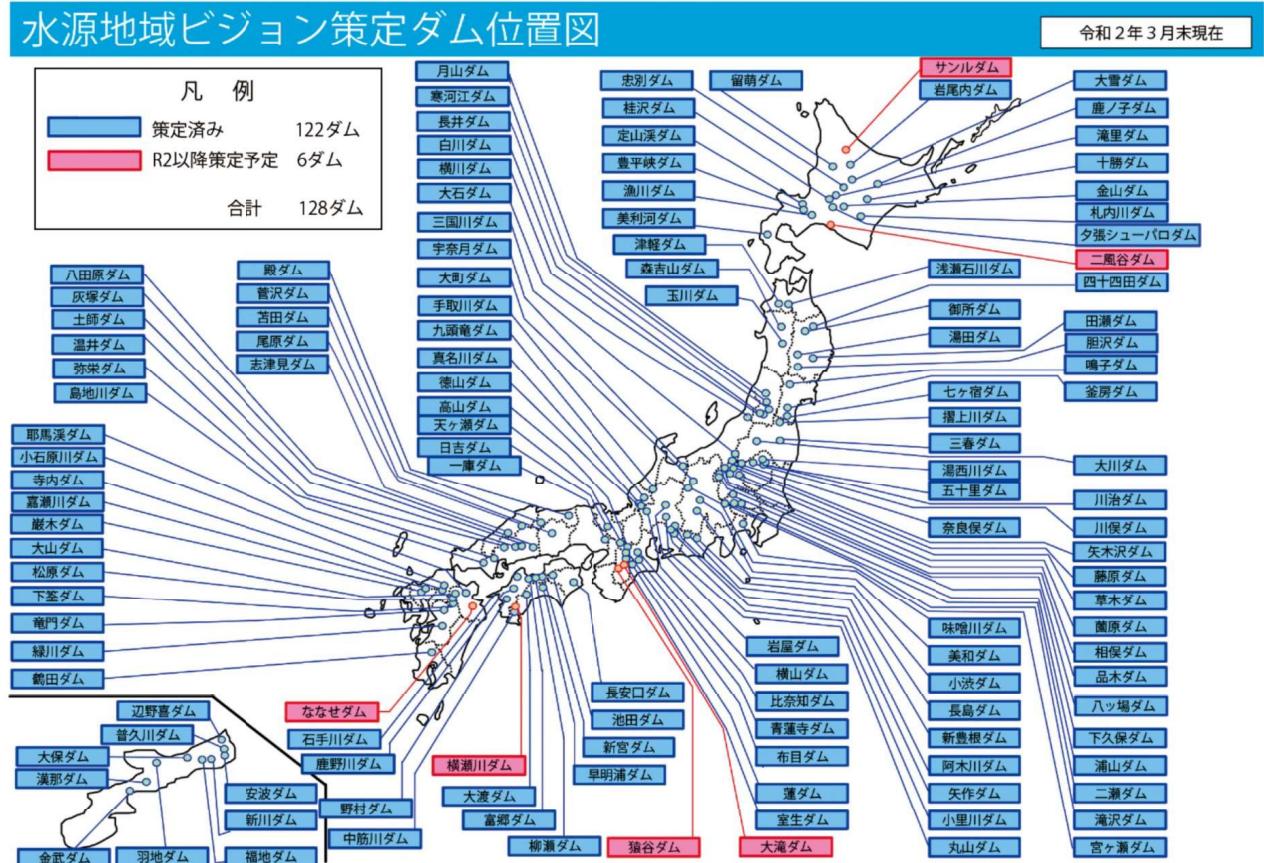
者が管理するダムごとに、水源地域の自治体などと共同で、ダムを生かした水源地域の自立的、持続的な活性化のための行動計画「水源地域ビジョン」を策定・推進しています。このビジョンでは、ダム湖周辺の豊かな水辺と緑を生かした公園整備など地域の特色と、ダムを生かした連携によるハード整備・ソフト対策や水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供などを目指しています。

2020年3月末時点で、ビジョン中122ダムが策定されています。かながわ湘南RCの水がめ探検隊が出掛けた宮ヶ瀬ダムも、その1つです。コロナが収束したあつきには、ダムツアーや試みてはいかがでしょうか。

名水を守る

環境省では、全国に多くの形態で存在する清澄な水について1985年3月、全国各地100カ所の湧水や河川

水源地域ビジョン策定ダム位置図^[1]



(注) 国土交通省水管理・国土保全局作成



を「名水百選」として選定しました。2008年には「平成の名水百選」も選定し、併せて200の名水が認められています。日本全国48カ所で「名水百選カード」が作られ、各自治体の窓口で無料配布されています（2017年4月現在）。

沼津柿田川RCは、名水の地にあるという立脚点を大事にしつつ、ロータリー家族と共に活動を重ねています。ロータリーが育んだ米山奨学生や学友から、各国の水事情、日本の水や環境に関する最新の情報を教えてもらい、一緒に川を本格的に清掃しています。一過性に陥らない、息の長い、持続可能な活動です。

河川を調べる

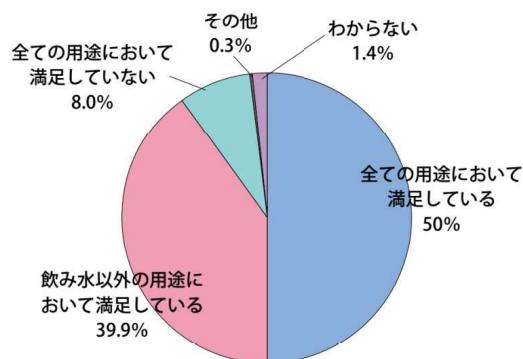
現在の日本の都市用水の水源の約76%は河川・湖沼から来ています。

黒磯RCのように、「水は本当にきれいなの？」という市民の声を受け、正確な水質を確認する調査活動は貴重です。また、地域のニーズに添いながら、自然にクラブの親睦も深まる流れをつくりっています。

2008年に内閣府が実施した「水に関する世論調査」によると、飲み水として満足していない、という回答が

約半数を占めます。近年、水を買うことも一般的となっていましたが、世界で水道水をそのまま飲める国は、日本を含めてわずか12カ国です。日本の水のありがたみを改めて、実感する時かもしれません。

水道水の質に対する満足度^[2]



（注）内閣府「水に関する世論調査」
(平成20年6月)を基に国土交通省水資源部作成

[1] 国土交通省水管理・国土保全局水資源部「令和2年版 日本の水資源の現況について」(図6-3-2、P.102)

[2] 国土交通省水管理・国土保全局水資源部「令和2年版 日本の水資源の現況について」(図3-4-4、P.57)